

(第1面)

産業廃棄物処理計画書

令和5年 6月 21日

埼玉県知事 大野 元裕 殿

提出者

住 所 埼玉県本庄市西富田762-1
ケイアイスター不動産株式会社
氏 名 代表取締役 埴 圭二
電話番号 0495-27-2525

廃棄物の処理及び清掃に関する法律第12条第9項の規定に基づき、産業廃棄物の減量その他その処理に関する計画を作成したので、提出します。

事業場の名称	ケイアイスター不動産株式会社
事業場の所在地	埼玉県本庄市西富田762-1
計画期間	令和5年4月1日～令和6年3月31日
当該事業場において現に行っている事業に関する事項	
① 事業の種類	06 総合工事業
② 事業の規模	元請完成工事高 2,418億円(2022年度実績)
③ 従業員数	令和5年4月1日現在 連結 2,463名(連結)
④ 産業廃棄物の一連の処理の工程	別紙 2



(日本産業規格 A列4番)

産業廃棄物の処理に係る管理体制に関する事項

(管理体制図)

別紙 3 表-②

産業廃棄物の排出の抑制に関する事項

① 現状	【前年度（令和 ⁴ 年度）実績】		
	産業廃棄物の種類	別紙1 表-①	
	排 出 量	20,431.01 t	t
	(これまでに実施した取組) ・資材梱包の削減 ・現場積算精度の向上 ・汎用性の高い資材の選定 ・余剰材の他現場への転用 ・品目別集積場所の明示		
②計画	【目標】		
	産業廃棄物の種類	別紙1 表-①	
	排 出 量	26,500 t	t
	(今後実施する予定の取組) ・ゴミ分別リストを工事関係者へ配布（周知徹底） ・品目別収集による単品処理先(再生事業者等)への納入 ・木材材料を中心としたプレカット化を更に推進 ・ダンボール、廃石膏ボード等(再生可能品目)の雨濡れ防止対策等、 現場管理方法の検討		

産業廃棄物の分別に関する事項

①現状	(分別している産業廃棄物の種類及び分別に関する取組) ・ダンボール ・金属くず ・石膏ボード ・木くず ・がれき類 ・できるだけ品目別に袋に入れる
②計画	(今後分別する予定の産業廃棄物の種類及び分別に関する取組) ・ダンボール ・金属くず ・石膏ボード ・木くず ・がれき類 ・現場搬出の際は可能な限り直接単品処理先(再生事業者等)へ搬入する

自ら行う産業廃棄物の再生利用に関する事項			
① 現状	【前年度（令和 ⁴ ₃ 年度）実績】		
	産業廃棄物の種類		
	自ら再生利用を行った産業廃棄物の量	0 t	t
	(これまでに実施した取組)		
②計画	【目標】		
	産業廃棄物の種類		
	自ら再生利用を行う産業廃棄物の量	0 t	t
	(今後実施する予定の取組)		
自ら行う産業廃棄物の中間処理に関する事項			
① 現状	【前年度（令和 ⁴ ₃ 年度）実績】		
	産業廃棄物の種類		
	自ら熱回収を行った産業廃棄物の量	0 t	t
	自ら中間処理により減量した産業廃棄物の量	0 t	t
	(これまでに実施した取組)		
②計画	【目標】		
	産業廃棄物の種類		
	自ら熱回収を行う産業廃棄物の量	0 t	t
	自ら中間処理により減量する産業廃棄物の量	0 t	t
	(今後実施する予定の取組)		

自ら行う産業廃棄物の埋立処分又は海洋投入処分に関する事項			
① 現状	【前年度（令和 ⁴ ₈ 年度）実績】		
	産業廃棄物の種類		
	自ら埋立処分又は海洋投入処分を行った産業廃棄物の量	0 t	t
	(これまでに実施した取組)		
② 計画	【目標】		
	産業廃棄物の種類		
	自ら埋立処分又は海洋投入処分を行う産業廃棄物の量	0 t	t
	(今後実施する予定の取組)		
産業廃棄物の処理の委託に関する事項			
① 現状	【前年度（令和 ⁴ ₈ 年度）実績】		
	産業廃棄物の種類	別紙 1 表-①	
	全処理委託量	20,431.01 t	t
	優良認定処理業者への処理委託量	4,684.59 t	t
	再生利用業者への処理委託量	0 t	t
	認定熱回収業者への処理委託量	0 t	t
	認定熱回収業者以外の熱回収を行う業者への処理委託量	0 t	t
	(これまでに実施した取組)		
<ul style="list-style-type: none"> ・産廃処理施設の視察 ・処理ルート of 状況把握 			

②計画	【目標】		
	産業廃棄物の種類	別紙 1 表-②	
	全処理委託量	26,500 t	t
	優良認定処理業者への 処理委託量	5,000 t	t
	再生利用業者への 処理委託量	t	t
	認定熱回収業者への 処理委託量	t	t
	認定熱回収業者以外の 熱回収を行う業者への 処理委託量	t	t
	(今後実施する予定の取組)		
<ul style="list-style-type: none"> ・品目別収集による単品処理先(再生事業者)への納入 ・許可に関する更新・変更等のメンテナンス管理 ・処理工程の確認 			
※事務処理欄			

備考

- 1 前年度の産業廃棄物の発生量が1,000トン以上の事業場ごとに1枚作成すること。
- 2 当該年度の6月30日までに提出すること。
- 3 「当該事業場において現に行っている事業に関する事項」の欄は、以下に従って記入すること。
 - (1)①欄には、日本標準産業分類の区分を記入すること。
 - (2)②欄には、製造業の場合における製造品出荷額（前年度実績）、建設業の場合における元請完成工事高（前年度実績）、医療機関の場合における病床数（前年度末時点）等の業種に応じ事業規模が分かるような前年度の実績を記入すること。
 - (3)④欄には、当該事業場において生ずる産業廃棄物についての発生から最終処分が終了するまでの一連の処理の工程（当該処理を委託する場合は、委託の内容を含む。）を記入すること。
- 4 「自ら行う産業廃棄物の中間処理に関する事項」の欄には、産業廃棄物の種類ごとに、自ら中間処理を行うに際して熱回収を行った場合における熱回収を行った産業廃棄物の量と、自ら中間処理を行うことによって減量した量について、前年度の実績、目標及び取組を記入すること。
- 5 「産業廃棄物の処理の委託に関する事項」の欄には、産業廃棄物の種類ごとに、全処理委託量を記入するほか、その内数として、優良認定処理業者（廃棄物の処理及び清掃に関する法律施行令第6条の11第2号に該当する者）への処理委託量、処理業者への再生利用委託量、認定熱回収施設設置者（廃棄物の処理及び清掃に関する法律第15条の3の3第1項の認定を受けた者）である処理業者への焼却処理委託量及び認定熱回収施設設置者以外の熱回収を行っている処理業者への焼却処理委託量について、前年度実績、目標及び取組を記入すること。
- 6 それぞれの欄に記入すべき事項の全てを記入することができないときは、当該欄に「別紙のとおり」と記入し、当該欄に記入すべき内容を記入した別紙を添付すること。また、産業廃棄物の種類が3以上あるときは、前年度実績及び目標の欄に「別紙のとおり」と記入し、当該欄に記入すべき内容を記入した別紙を添付すること。また、それぞれの欄に記入すべき事項がないときは、「―」を記入すること。
- 7 ※欄は記入しないこと。

表-① 令和4年度 産業廃棄物 発生量実績 (R4年4月～R5年3月)

品目	廃プラスチック	紙くず	木くず	繊維くず	金属くず	ガラスくず、 コンクリートく ず及び陶磁 器くず	廃石膏ボード	混合廃棄物	がれき類	コンクリートガラ	アスファルト・コンク リートガラ	合計
容量 (t)	3,802.92	2,197.58	5,595.69	26.34	369.06	1,412.69	1,926.42	5,025.80	58.23	16.19	0.10	20,431.01

表-② 令和5年度 産業廃棄物 発生量計画 (R5年4月～R6年3月)

品目	廃プラスチック	紙くず	木くず	繊維くず	金属くず	ガラスくず、 コンクリートく ず及び陶磁 器くず	廃石膏ボード	混合廃棄物	がれき類	コンクリートガラ	アスファルト・コンク リートガラ	合計
重量 (t)	5,000	2,800	7,200	50	500	1,850	2,500	6,500	80	20	0	26,500

産業廃棄物の一連の処理の工程



